

電気通信大学 平成21年度シラバス

授業科目名	Academic English for the Second Year II		
英文授業科目名	Academic English for the Second Year II		
開講年度	2009年度	開講年次	2年次
開講学期	後学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法	演習	単位数	1
科目区分	総合文化科目-言語文化科目-言語文化応用科目 I		
開講学科・専攻	情報通信工学科 知能機械工学科		
担当教官名	樽井 武		
居室	東1-712		

公開E-Mail	授業関連Webページ
tarui@bunka.uec.ac.jp	工事中

<p>【主題および達成目標】</p> <p>1.アカデミック・リーディングの能力 *興味・関心に応じて各種の英文を自主的に読むとともに、批判的に読む（クリティカル・リーディング）態度を向上させる *ディスカッション・ライティング・プレゼンテーションに必要な情報をITの利用により入手し読み込む</p> <p>2.アカデミック・ライティングの能力 *ITを使って情報を入手し、エッセイやリサーチペーパーを書く *クラスメート及び教員のコメントを参考に推敲する *自主的にジャーナルをつける</p> <p>3.アカデミック・プレゼンテーションの能力 *ポスターあるいはパワーポイントを使用して、個人またはグループでクラスを対象にプレゼンテーションを行なう *クラスメートによる評価を受けるとともに、発表者自身が自己評価する *プレゼンテーションに向けて、自主的なリサーチ及び自主的な言語学習を行なう</p> <p>4.アカデミック・ディスカッションの能力 *教師が提示したトピックあるいは学生が自ら選んだトピックについて話し合う *グループ・ディスカッションの進め方を身につける *メモのとり方を身につけて、話し合われた内容を報告する</p>

<p>【前もって履修しておくべき科目】</p> <p>Academic Spoken English ?T, Academic Spoken English ?U, Academic Written English ?T, Academic Written English ?U</p>
--

電気通信大学 平成21年度シラバス

【前もって履修しておくことが望ましい科目】

Academic English for the Second Year ?T

【教科書等】

Power-Up English JACETリスニング研究会編 南雲堂

【授業内容とその進め方】

a) 授業内容

授業計画（A4で2枚）を授業時に配布する。なお、関連図1を参照のこと。

(b) 授業の進め方

教科書のモデル学習を通して学習方法やまとめ方を学んだ後で、学生は各自の興味に応じて個別学習を行う。その結果を様々な形で発表し、他の学生の評価を参考にしながら最終課題に取り組む。具体的には、自分の興味のあるトピックを選び、問題を設定し、様々な資料を利用して自分なりの解決策をまとめて発表するといった作業を英語（一部日本語）で行う。レポート・ポスターの作成やプレゼンテーション・ディスカッション等に取り組む。

【授業時間外の学習（予習・復習等）】

課題等

R1, R2, R3: 学習するUnitの内容を、日本語および英語で要約し、語彙リストを添付する。また、英文（の一部）を読み録音する。R4: 学習するUnitのdictationの結果レポートR5: 自分の選んだ課題をposterに仕上げる。R6: 自分の選んだ課題をpresentationに仕上げる。

3) リズム学習： 講義の始め(T1)、中間(T2)、終わり(T3)に英語の表現を録音して評価の判定をする（関連図2）。各自の判定結果（初級・中級・上級）に応じてリズム訓練を自主学習として行い（関連図3）、結果をレポートにまとめる。

4) TOEICでの英語力の一部の客観的実力の証明

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

(a) 評価方法

- 1) 授業の2/3以上出席していること。
- 2) 課題等
R1, R2, R3: 学習するUnitの内容を、日本語および英語で要約し、語彙リストを添付する。また、英文(の一部)を読み録音する。R4: 学習するUnitのdictationの結果レポートR5: 自分の選んだ課題をposterに仕上げる。R6: 自分の選んだ課題をpresentationに仕上げる。
- 3) リズム学習: 講義の始め(T1)、中間(T2)、終わり(T3)に英語の表現を録音して評価の判定をする(関連図2)。各自の判定結果(初級・中級・上級)に応じてリズム訓練を自主学習として行い(関連図3)、結果をレポートにまとめる。
- 4) TOEICでの英語力の一部の客観的実力の証明

以下の項目を総合的に評価する。

・ R1, R2, ・ R3 7 x 3 = 21 % ・ R4 15 % ・ R5 & R6 50 % ・ リズム学習 14 %
 ・ 計100%

(b) 評価基準: 以下の到達レベルをもって合格の最低基準とする。

要求されている課題等が提出されており、以下の科目の教育目標をほぼ達成していること。

- 1) アカデミックな文献が読める
- 2) アカデミックな英文が書ける
- 3) アカデミックなトピックについて討論ができる
- 4) アカデミックなトピックについてプレゼンテーションができる

【オフィスアワー: 授業相談】

- * 火曜日 12:30 ~ 14:00 水曜日 13:00 ~ 15:00 金曜日 13:00 ~ 17:00
- * 簡単な質問は、e-mailでも受け付ける。
- * 時間を要する質問・相談はe-mailで予約すること。

【学生へのメッセージ】

受講する時点での学生の英語力は問わない。英語が苦手、普通、ちょっと得意、英語オタク、将来英語を武器に世界の舞台で専門技術を生かしたい・・・どんな学生でも歓迎する。ただし、1年間英語を自主的・総合的に学んで、TOEICテストの得点なら、100点くらいUPさせたいと希望する意思力・体力・実行力のある学生が理想的(ただし、本講義はTOEICテストの準備講座ではない・・・念のため)。講義・自主学習・言語自習室や図書館等を十分に活用し、技術者に必要とされる真の英語力の獲得を強く望む学生の履修を強く望む。

【その他】

- * 録音および録音ファイルの作成は、講義の中で説明する。実際の録音は言語自習室で行う。
- * 録音や課題作成のためにUSBを使用するので、各自準備すること。
- * リズム学習の方法は、講義の中で説明する。実際の学習は現在作成中のe-learning 学習ソフトを参考に言語自習室で自主学習として行う。

関連図1



関連図2

ICTのリズム分析・評価 - 学習

総合評価 **AAA**

あなたの総合評価はAAAと優れています。

- NN 非常に Native speakers に近いリズム
- NA Native speakers と上級者(A)の間のリズム
- AA 日本人の英語の上級者としてのリズム
- AM 上級者(A)と中級者(M)の間のリズム
- MM 日本人の英語の中級者としてのリズム
- MB 中級者(M)と初級者(B)の間のリズム
- BB 日本人の英語の初級者としてのリズム
- BJ 初級者(B)と英語学習経験の無い日本人の間のリズム
- JJ 英語学習経験の無い日本人のリズム

関連図3



関連図4

英語の聴き取りの誤り

